

り河村夫妻をお迎えしまして九年牧会して下さいました。四十三年に主人が病死いたしました。その時、聖書協会より聖書販売に来て居りました、竹森先生に洗礼を受けた方が(名を忘れました)腸ねん転の手術を受け、まだそのキズも快くならないのに歩いて聖書を町から町に売り歩いて居る時でした。その方が南部教会、黒田牧師より主人の重体を聞いて上山に来て下さいました。小池さんが私のところにその方を案内して下さいました。神の摂理のくしき導きを感じておられます。その方の証しを姑も聞きました。主人は、もう重体でしたので次の部屋より話して頂きました。その主人は安らかに息を引き取り、近親の方に見守られて召されました。主人は養子だったものですから前婦の墓に納められました。あれから十九年になりますが私の健康も快復いたしました。教会に通いいつも礼拝を守り主のお恵みのうちに過越させて頂く事を感謝いたして居ります。河村先生が上山教会にお出になつてから、小池さんの後を受けて会計を受持ちまして、なき力を出させて頂きました。太田さんが横手、瀬谷先生より洗礼を受けて上山教会に転会しましたので会計をお願いいたしました。若い人達もしつかりしましたので長老さんも新しい方々にお願ひしました。

河村先生を信愛荘に送りまして、山形六日町教会より神崎先生がお出下さり、県南地区の牧師に、牧師先生が去つた後お願いしました。神崎先生が代務者として、長谷川先生、松村先生、足立先生、酒井先生、他にも大勢ご援助いただきまして三年前、添野先生をお迎えいたしました。添野先生は、奥様お若くお子様も三人お出下さり、その後、一昨年男子お生まれになり四人となりました。ほんとに感謝いたして居ります。老人ばかりのところはほんとに若い方がお出下さり教会も若返った感じで感謝いたしております。黒沼先生が教会学校を受け持つて子供たちを導いて下さる事は神様の恵み豊かなるを感謝いたします。

私が教会に来たばかりの時に安達チヨノ様まだ若くて私も子供が小さかったので二人で婦人会の集りをした記憶が今も残つて居ります。神はいつも必要なものを与えて下さる。私の支えになつたのは、ロマ書十二章十二節「望みをいだいて喜び患難に耐え常に祈りなさい。」です。

忘れられない事は河村先生の時に東京玉川平安教会と姉妹教会となり、年に一度、南吉衛先生が来て下さり、信仰

と共に物質的援助を頂きました事は、ほんとうに感謝でございます。

ほんとうに神の御手に守られ導かれ凡て感謝のうちに百年祭を迎える事のできました事を感謝いたします。

神は愛なり

村山信子

私の信仰について語るとすれば先づ祖父の代にさかのぼらなければならない。

祖父京極茂記は当時古峯神社の法印であつた。

明治十九年——夏——突然上山のこの地にアール・デビットソンと言うキリスト教の宣教師がやって来て演説会を開いた。会場は会津屋(のちのよねや旅館)どういうわけかその世話の万端を祖父は小池侶之進氏と共に一所懸命にやったという。(小池氏は現在当教会のオルガニスト小池レイ姉の祖父に当る方で、明治十四年越後中條町に行つて居った時パーム宣教師により洗礼を受けて上山に帰り写真屋を開いて居つたと言う上山で第一号のクリスチャンだった。)会津屋ではかなりの聴衆があつたがその日一回で終わった。その翌日からは、祖父は自宅(十日町、今の佐竹書店)を開放して会場とし、デビット氏の説教に熱心に耳を傾けたが、日ならずして今までの法印の衣を脱ぎ棄て洗礼を受けてクリスチャンとなつたのである。つづいて妻と五人の子供にも洗礼を受けさせた。明治十九年(丁度百年前)祖父三十四歳の時だった。

これらの話は私の生まれる二十四年前の出来事で後年祖母の折にふれての思い出話と教会に残された記録によるものである。祖父は大正五年私が六歳の頃永眠したので、思い出はかすかにしか残っていない。祖母(芳尾)の苦勞はそれからはいしまり十年余に渡つて続くのである。職を放棄した祖父は祖母とともに小間物商となり品物を大八車につけ在郷力に出向いて行商をはじめたがこれは長くは続かなかつた。祖父は、商売をするには余りにも正直すぎて商売